

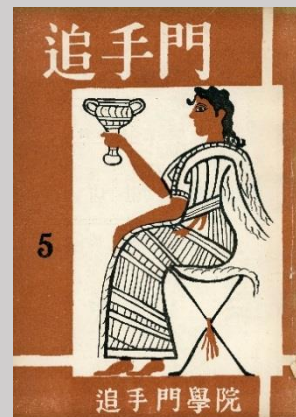
テーマ

味わい深い装丁

学院発行雑誌にみる昭和デザイン



昭和 23 (1948) 年



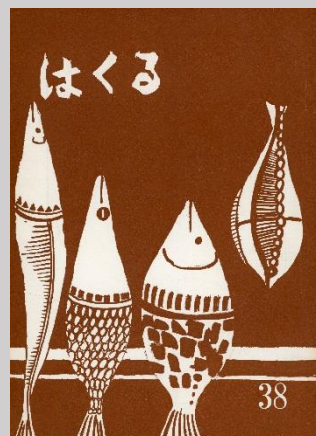
昭和 25 (1950) 年



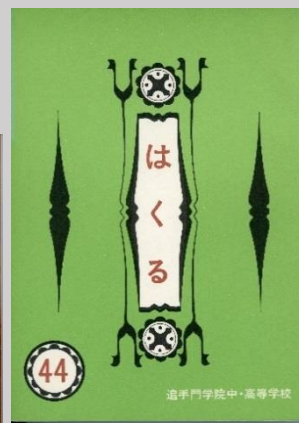
昭和 26 (1951) 年



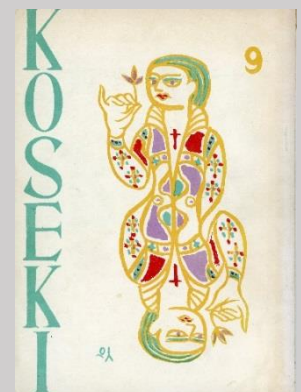
昭和 24 (1949) 年



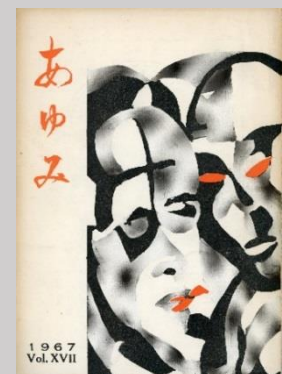
昭和 45 (1970) 年



昭和 51 (1976) 年



昭和 34 (1959) 年



昭和 42 (1967) 年

(「学級の友」3冊 深江賢氏 (追手門学院小学校第61期生) 寄贈)

昭和のデザイン、特に終戦から4、5年たった昭和初期の雑誌の装丁は、紙質こそよくないが、モダンで味わい深いものが多い。左上、表紙に蜻蛉と竹がデザインされた2冊と、それとは趣きが異なる雛人形がデザインされている「学級の友」は、追手門学院小学部吉成学級の文集、右上「追手門」は、追手門学院小学部発行。KOSEKI (航跡) は、追手門学院高等部、「はくる」は、追手門学院中学・高等部大手前学舎、「あゆみ」は、追手門学院中学部自治会が発行。

2016年4月の藤吉圭二室長就任と同時に私も副室長を拝命しました。学院志研究室が新たな体制で活動を開始してから1年が経過しようとしています。

この間、前体制から継続されている大学の記念資料室所蔵資料の目録化が着々と進められ、現在ほぼ終了の目処が立つ段階にまで到達しています。将軍山会館の地下に置かれていた資料類についても、今年度から整理・選別をスタートし、その一部資料については既に記念資料室への移動・収蔵が行われました。また、しばらく疎遠になっていた室員や研究員の方々を定例会議にお招きし、これまでの活動について順次お話を伺いつつ、学院志研究室の活動体制としてより現状に即したかたちを検討しています。

一方、2017年度の活動に向けて学院全体を見渡す時、歴史資料が各学舎に分散しており、管理もそれぞれの方法で行われているという現状が目に入ります。

折しも、2018年の学院創立130周年に向けて記念式典の企画や130周年志の編纂などが動き出すとする中、それぞれの学舎が所蔵している歴史資料を、大学のみならず、学院全体として共通の方針の下に保存・管理し、より容易に相互閲覧できるようなシステムの必要が痛感されます。そこで、学院志研究室では、各学舎に呼びかけて歴史資料担当者ネットワークをつくり、手始めに既に発刊されている学院関連の年表について、その記述を共有データベースとして一元化する作業を開始しました。情報メディア課の協力で制作されたこのツールは、年表データの入力が各学舎からいつでも簡単にできる他、記述事項の検索や関連項目毎の抽出も容易な設計で、将来の母年表づくりの端緒を拓くものです。

2017年度は、このような協働を第一歩として各学舎との連携を深めつつ、歴史資料の生きたアーカイブと積極的な活用を、学院全体で推進してゆきたいと願っています。

〔活動日誌〕

- 2016年 9月 1日 「学院志研究室ニューズレター」第3号発行
- 2016年 9月 ～ 毎月1回 学院志研究室 室員会議 開催
- 2016年 11月 6日 「ホームカミング・デー」寄贈依頼チラシ作成・配布
- 2016年 12月 13日 全国大学史資料協議会 西日本部会 第4回研究会（三重県総合博物館）（田村）出席
- 2017年 1月 27日 第3回早稲田大学 大学史セミナー（早稲田大学早稲田キャンパス）（齊藤副室長）出席

〔受贈報告〕（学外）

- 2016年 9月 川島哲夫氏（追手門学院小学校第59期生、中学校第2期生、高等学校第2期生）
- 2016年 10月 贄田 肇氏（追手門学院大学 第6期生）
- 2016年 10月 西川喜朗氏（追手門学院大学名誉教授）

資料の寄贈・提供のお願い

学院志研究室では、追手門学院大学および学院に関する資料を、広く収集しています。創立者及び学院関係者の諸資料、広報誌などの学内刊行物、教職員・学生・生徒の出版物、写真、記念品など、学院の歴史に関する資料がございましたら、下記までお気軽にご連絡ください。

